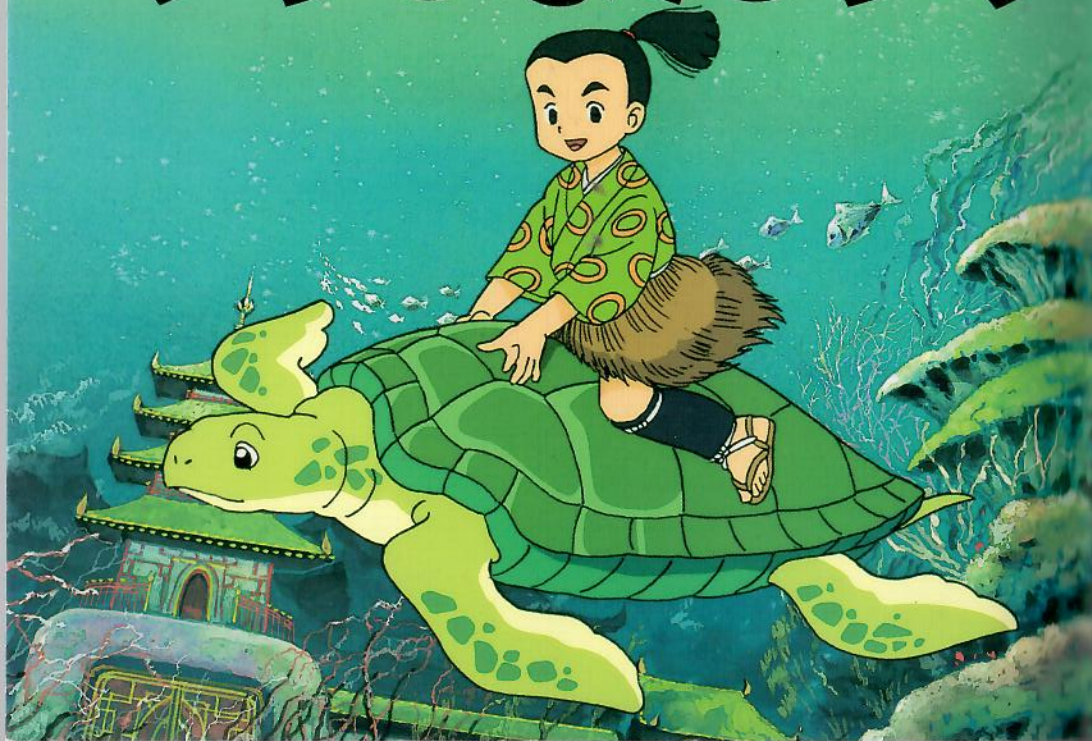


日本昔ばなし
アニメ絵本

12

うらしまたろう



9784522182123



1928076003529

ISBN978-4-522-18212-3

C8076 ¥352E

定価 本体352円 + 税

日本昔ばなしアニメ絵本シリーズ

- ①かちかち山
- ②さるかにばなし
- ③一休さん
- ④かぐやひめ
- ⑤ももたろう
- ⑥いっすんぼうし
- ⑦はなさかじいさん
- ⑧こぶとりじいさん
- ⑨したきりすずめ
- ⑩おむすびころりん
- ⑪ふんぶくちやがま
- ⑫うらしまたろう
- ⑬かさじぞう
- ⑭きんたろう
- ⑮つるのおんがえし

世界名作アニメ絵本シリーズ

- ①ながぐつをはいたねこ
- ②シンデレラ
- ③ヘンゼルとグレーテル
- ④しらゆきひめ
- ⑤三びきのこぶた
- ⑥おやゆびひめ
- ⑦みにくいあひるのこ
- ⑧にんぎょひめ
- ⑨あかずきんちゃん
- ⑩おおかみと七ひきのこやぎ
- ⑪ピノキオ
- ⑫ピーターパン
- ⑬こびととくつや
- ⑭赤いくつ
- ⑮はくちょうのみずうみ
- ⑯そんごくう
- ⑰みつばちマーヤ
- ⑱ジャックとまめの木
- ⑲イソップものがたり①
- ⑳イソップものがたり②

日本昔ばなしアニメ絵本⑫ うらしまたろう 2007年発行 ㊤
文/柿沼美浩 編集協力/(株)アネックス
脚色・構成/水端せり 絵/中島ゆう子
発行者=永岡修一 発行所=永岡書店〒176-8518 東京都練馬区豊玉上1-7-14 TEL.03(3992)5155



4 951119 042121



むかし、『うらしまたろう』と いう
りょうしが おかあさんと くらして
いました。
ある日^ひの こと、たろうは いつも
の ように 小^こぶねで つりを して
いましたが、さかなが 一^{いっ}ぴきも つ
れません。



「しかた

ないや。

きようは

かえろう。」

たろうは はまに 上あがりました。

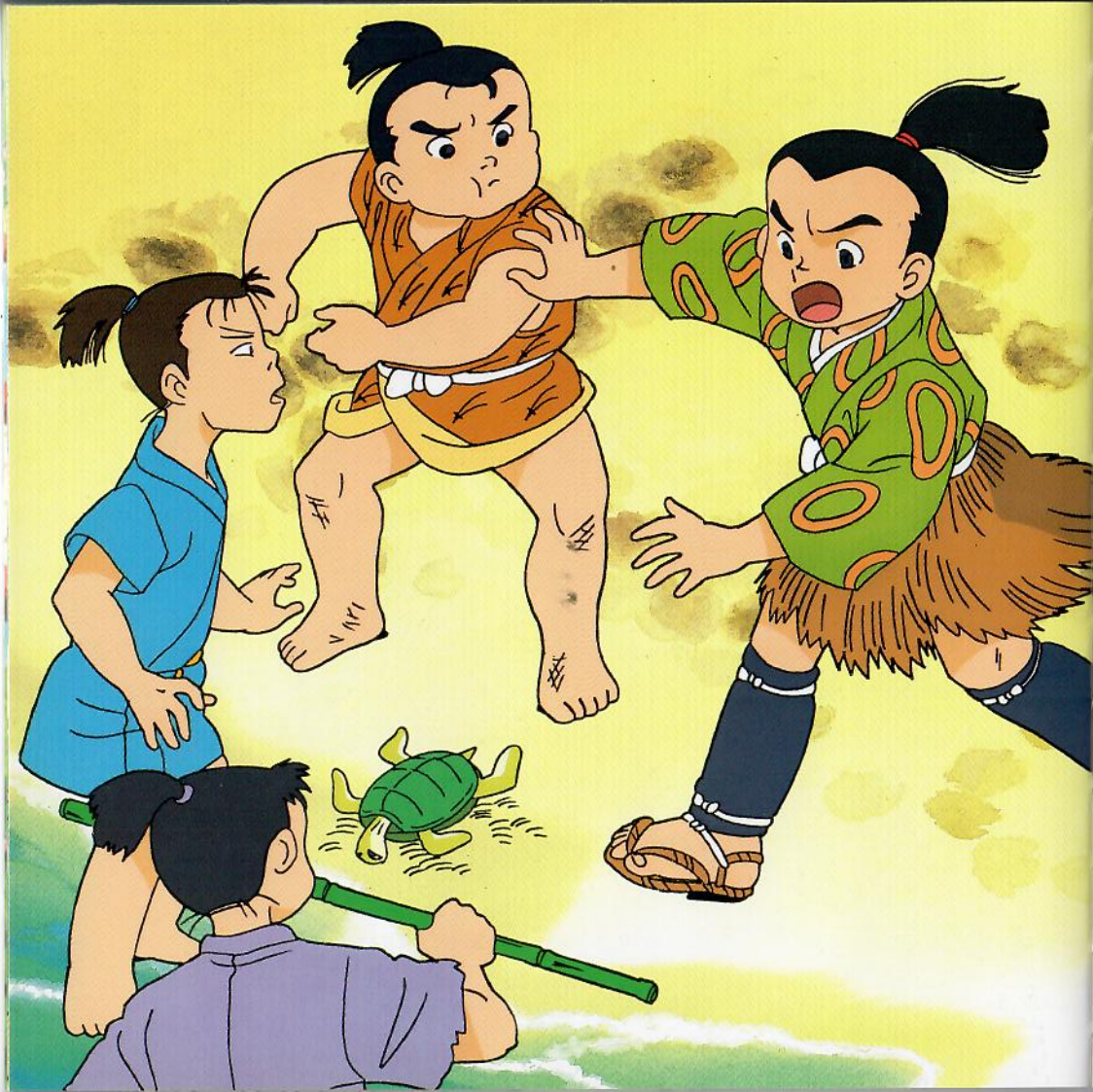
すなはまだ 子どもたちが さわいで

います。ちかづいてみると、小ちいさな

かめを ぼうで つついて いじめて

いるのです。





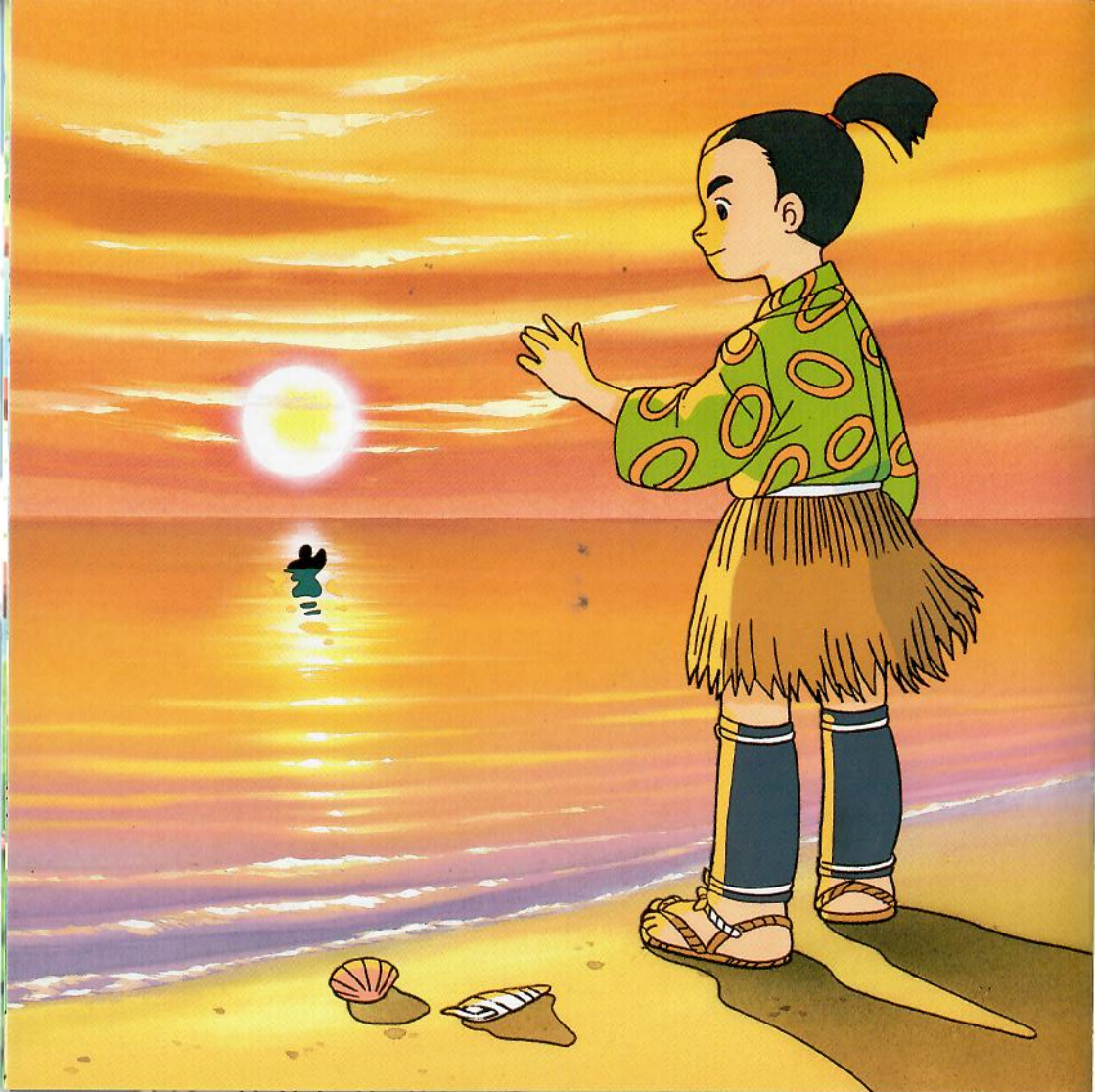
ちい
小さな
かめは
目^めに
なみだを
うかべて、もがいて います。
「にがして やりなさい！ よわい
ものを いじめては いけないよ。」
「じゃあ、おじさん。この かめを
かっっておくれよ。」





たろうが
お金を わたすと、
子どもたちは
かめを おいて
かえって いきました。
「かわいそうに。いたかっただろう。」
たろうは かめを 手に のせると、
すなを はらって やりました。ふし
ぎな いろいろ、きれいな かめです。





「もう

つかまるんじや

ないよ。」

たろうは

かめを うみに にがして

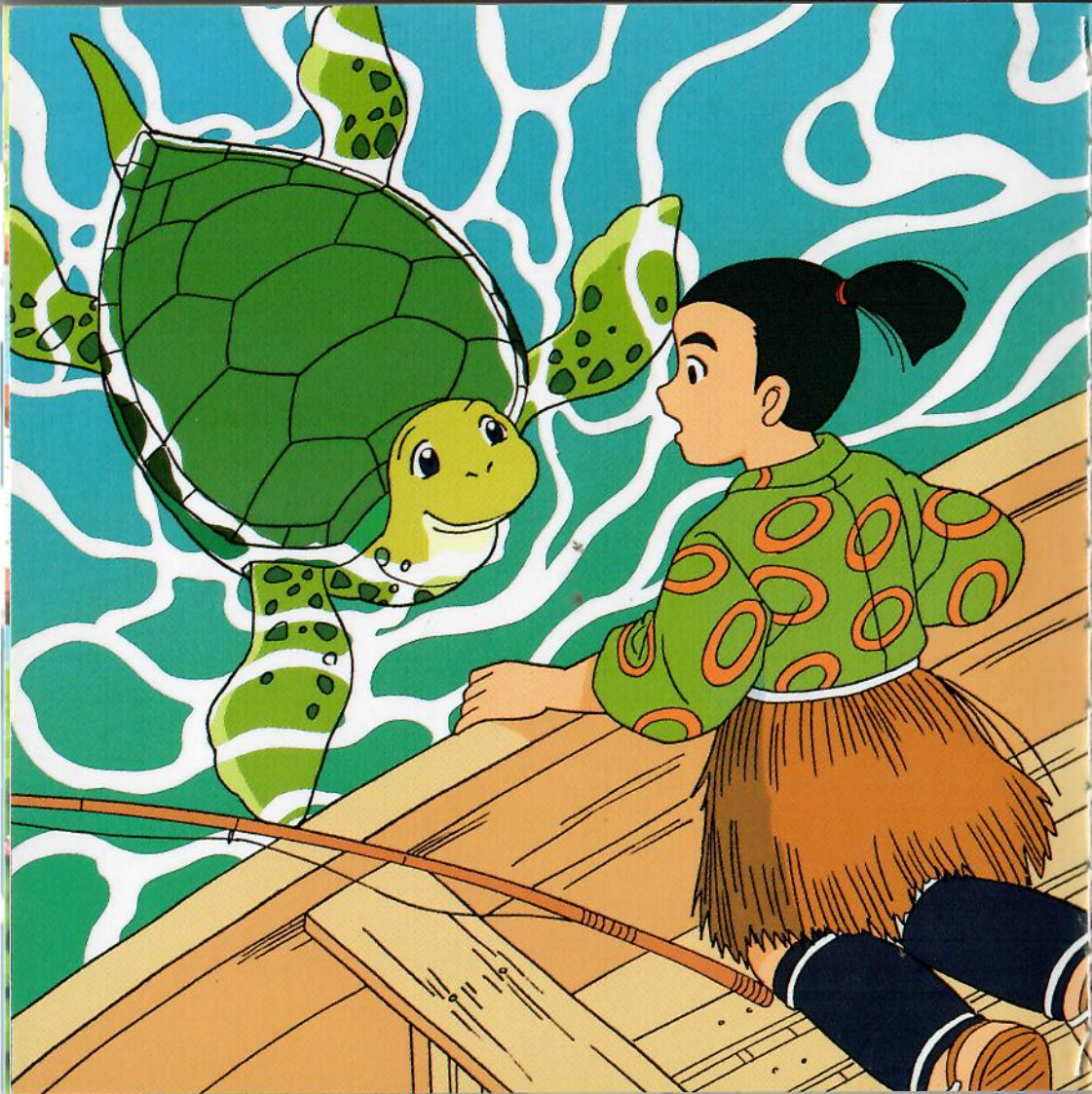
あげました。かめは しばらく およ

ぐと、ぷかりなみに うかんで

ふりかえり、あたまを さ下げました。

そして うみに きえて いきました。





つぎの日、

たろうが

うみで

りょうを

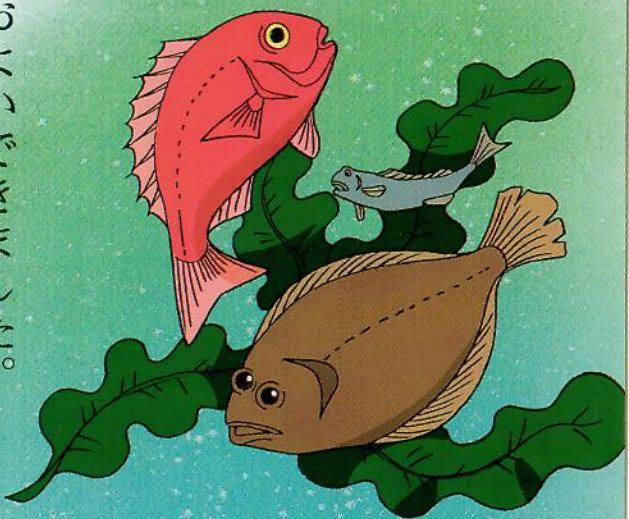
していると、

大きな おおかめが およいできました。

「たろうさん。きのう ちい小さな かめを

たすけて くださった おれいに、りゆ

うぐうじょうに おつれします。」





かめは せなかに たろうを のせ
ると、ザンブリと うみに もぐりま
した。こんぶや さんごの 森^{もり}を ぬけ
ると、きゆうに あたりが キラキラ
ひかりはじめました。



貝がらや

さんご、

しんじゆが

キラキラ ひかる

りゆうぐうじょうに ついたのです。

おどろいている たろうを、うつくし

い おひめさまが 出でむかえました。

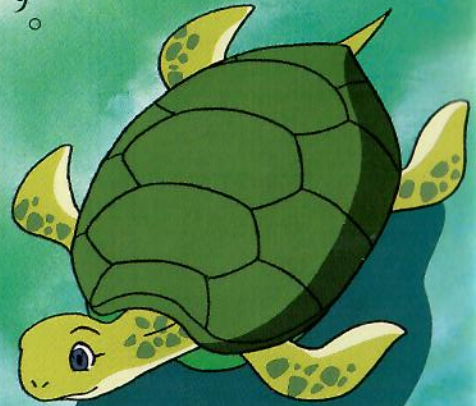
「きのうは ありがとう ございまし

た。わたしは おとひめと います。」





たろうが
たすけた
きれいな かめは
おとひめだったのです。
かめに すがたを かえて 人げんの
せかいを 見^みにいき、子^こどもたちに
つかまってしまったのでした。
「たろうさん。どうか ゆっくりた
のしんで くださいね。」





「でも、

おかあさんが

まって

いますから。」

「しんぱい いりません。

たろうさんが るすの あいだ、しろ

の ものが おせわを します。」

おとひめは、きれいな おお大ひろまに

たろうを あんないしました。





おお
大ひろまには

ごちそうが

ならび、

まいひめたちが

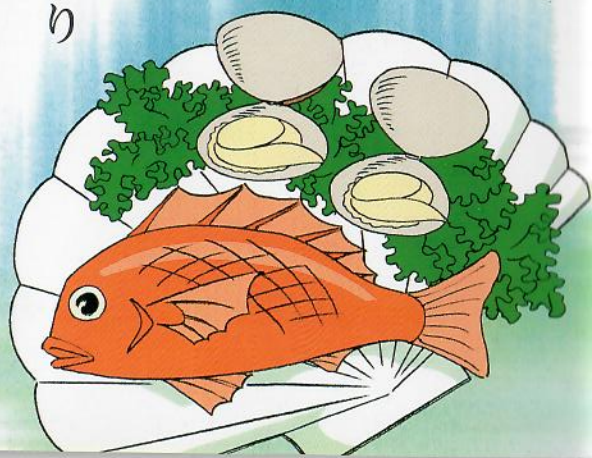
ちょうの ように おどり

はじめました。たろうは うっとり。

おとひめの ちちおやの りゅうお

うも、たろうに おれいを いいます。

「ゆっくり すごすが いい。」





まい日にちが

ゆめの ように

すぎて いきました。

おとひめは ひろい

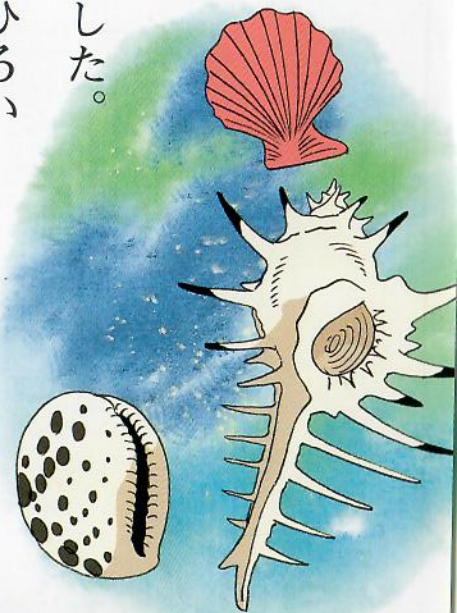
しろの 中なかを あんないして、めずら

しい さかなや 貝かいの 名なまえを お

しえてくれるのでした。

ある日ひ、たろうは ふしぎな へや

を 見みつけました。





ガランとした
へやの 中に、
とびらが 四つ
ならんで います。
「あけて ごらん下さい。」
いわれた とおり たろうが とび
らの 一つを あけると、さくらが
さき、そよかぜが ふいて います。
「ここは はるの へやですよ。」





つぎの とびらを あけると、そこ
は なつの へやでした。青い 空に
むくむくと わく 入どうぐも。せみ
が げん気に なき、田んぼでは いね
が 青あおと そだつて います。



つぎは

あきの

へやです。

いねの

ほは すっかり こがねいろに

なつて、おもそくに たれて います。

やがて 空そらが きれいな 夕ゆうやけに

そまり、よるに なりました。まんげつ月

が 空そらに うかんで います。





さいごの

とびらを

あけると、

いちめん

白いゆきがふっていました。

まっ白いの山にうさぎがはね

まわっています。

「ふゆのへやです。さあ、ゆきあそ

びをしましょう。」





たのしく
くらししている
うちに
いつのまにか
三年が さんねん すぎていました。
たろうは、ふるさとに いる おか
あさんを おもい出だしました。
「おかあさんは わたしの かえりを
まっている。もう かえらなければ。」





「どうか
かえらないで
ください。」

おとひめは

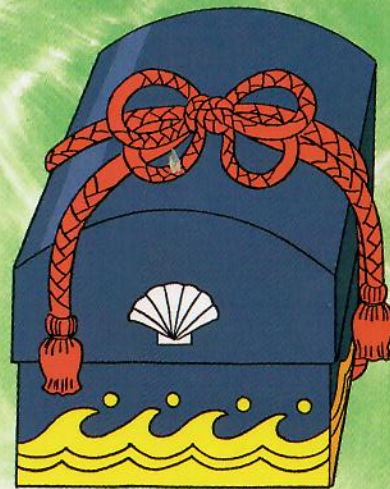
ひきとめました、たろうの

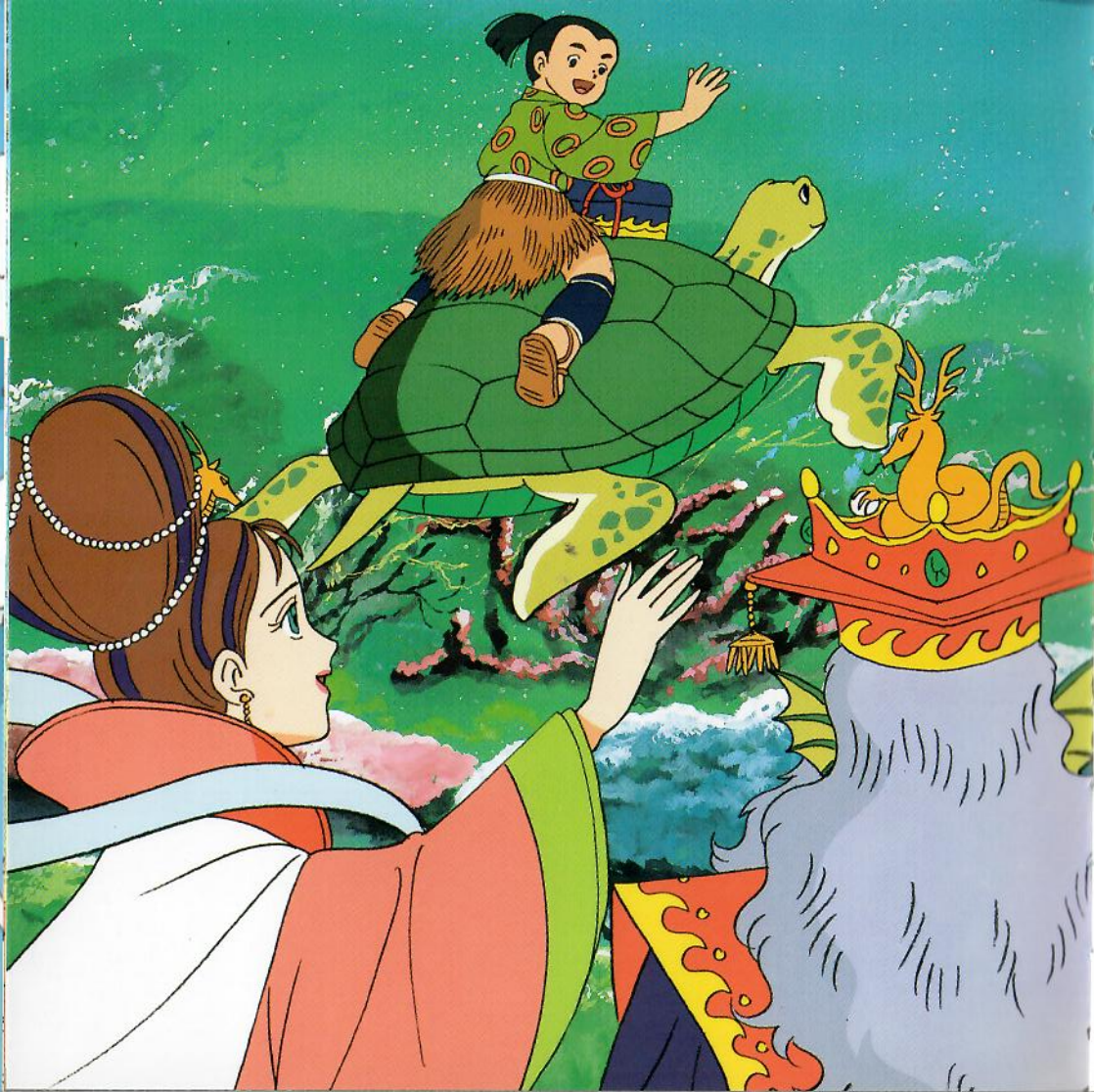
きもちが かわらないのを しると、

きれいな はこを 手わたしました。

「おみやげに この 玉手たまてばこを さ

しあげましょう。」





「これを
もっていけば、
りゅうぐうへ
もどれます。
でも もどってくるまでは、けっして
はこを あけては いけませんよ。」
たろうは おとひめと りゅうおう
に おれいを いうと、かめの せな
かに またがりました。





かめは
はまべに
たろうを
おろすと、
うみに かえって いきました。
たろうは いえに むかって かけ
出^だしました。ところが、いえが あつ
た ところは 草^{くさ}ぼうぼうで、あたり
の ようすも ちがって います。





たろうは

あるいている

ひと
人びとに

たずねまわりました。

すると、一人の

おばあさんが こう ことえたのです。

「うらしまたろうは さんびやくねん 三百年も まえ

の ひと 人だよ。なんでも りゆうぐうへ

いったそうじゃが…。」





「三年と

おもっていたが、

三百年も

たっていたのか…。」

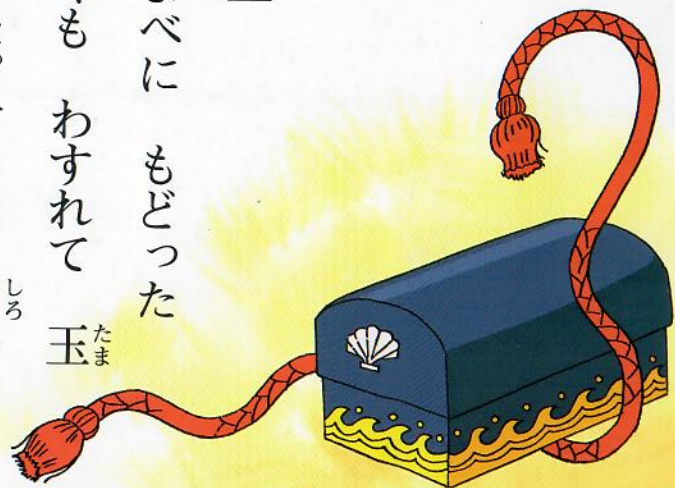
ぼんやりと はまべに もどった

たろうは、やくそくも わすれて 玉

手^てばこを あけました。すると 白^{しろ}い

けむりが 上^あがって、たろうは おじ

いさんに なっていました。





そのとき、玉手たまてばこにのこつて
いたつるのはねがフワリとま
い上あがり、たろうのすがたはつる
にかわりました。つるのなくこ
えをきいて、おとひめはかめに
すがたをかえ、たろうにあいに
きたといます。

日本昔ばなし
アニメ絵本

12

うらしまたろう

